

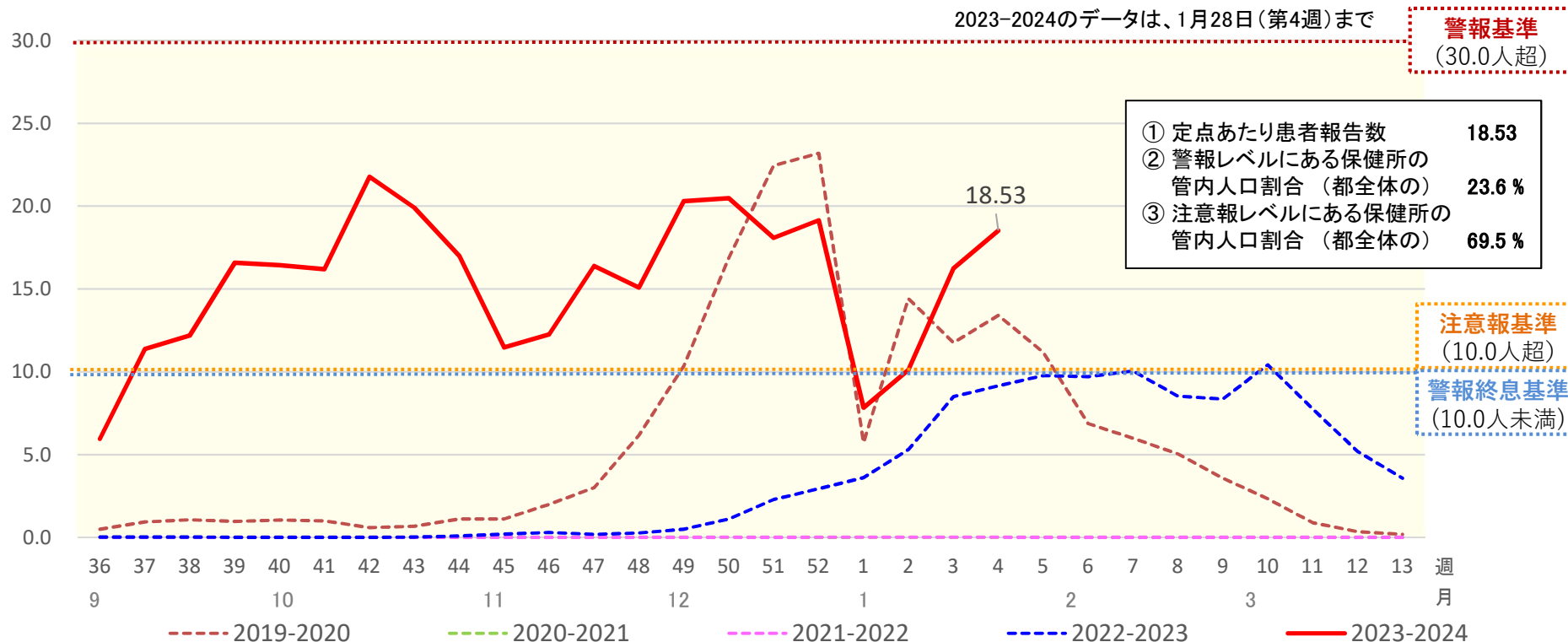
# インフルエンザの感染状況

資料4

都内における週別定点あたりの患者報告数

(注意報レベル開始基準値 10.0人)  
(警報レベル開始基準値 30.0人)

注意報レベル(2023-37週~)



## ※ 注意報レベルの継続

注意報レベル解除の基準は無いが、2024年第4週では定点あたりの報告数が18.53で、警報レベル解除基準の10.0を超過していることに加え、注意報レベルにある保健所の数は20保健所、管内人口割合は69.5%で基準の30.0%を超過していることから、**注意報レベルを継続**する。

➤ 場面に応じたマスクの着用、手洗いや換気など、  
基本的な感染防止対策の心がけを！

# 麻疹（はしか） ・ 風しん - 5類感染症 -

## 麻疹の症状等

(参照：東京都感染症情報センターホームページ・国立感染症研究所ホームページ)

感染経路	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 空気感染、飛沫感染、接触感染（ヒトからヒトへ感染が伝播）</li><li>・ 感染力は極めて強く、免疫を持たない人はほぼ100%感染</li><li>・ 感染した人の90%以上が発症</li><li>・ 発症した人が周囲に感染させる期間は、発しんが出現する4日前から発しん出現後4～5日くらいまで</li></ul> <p>※ 感染力が最も強いのは発しん出現前の期間</p>
都内での発生状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2023年4月にインドから帰国した茨城県在住者と同じ公共交通機関を利用した都内在住者の感染を確認（2023年5月12日発表）</li></ul>
症状	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状（咳、鼻水、目の充血等）が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発しんが出現</li><li>・ 主な症状は、発熱・発しんの他、咳、鼻水、目の充血など</li><li>・ 通常は7～10日で回復するが、肺炎、脳炎等の重い合併症を発症する場合あり</li></ul>

# 麻疹（はしか） ・ 風しん - 5類感染症 -

## 風しんの症状等

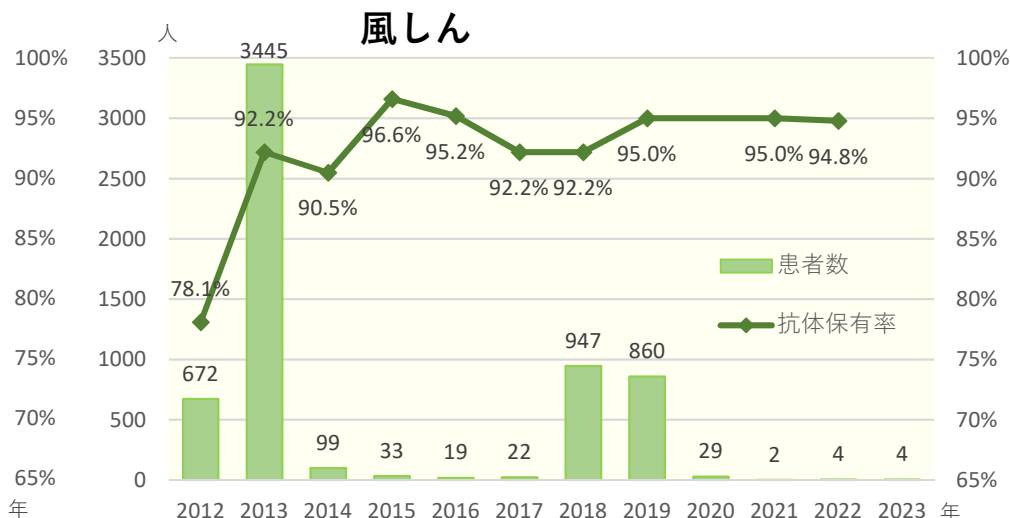
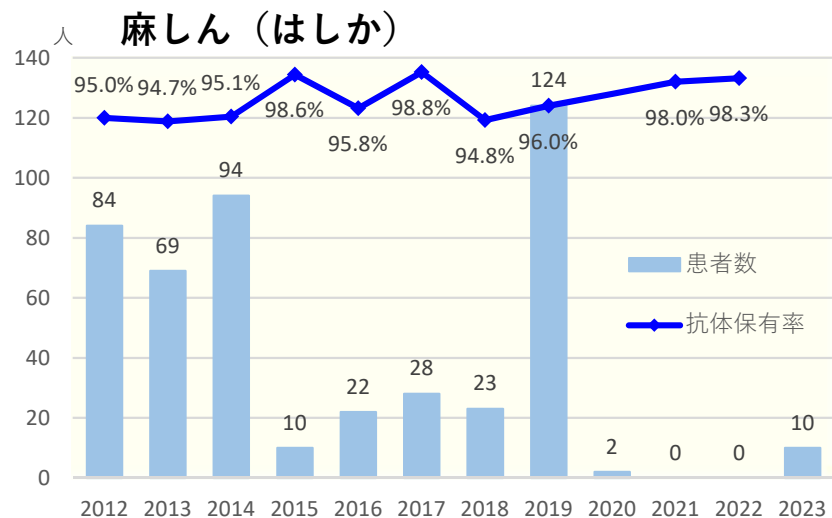
(参照：東京都感染症情報センター、厚生労働省、国立感染症研究所ホームページ)

感染経路	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 飛沫感染、接触感染（ヒトからヒトへ感染が伝播）</li><li>・ <b>周囲へ感染させる期間は、発しんの出現する前後1週間程度</b></li><li>・ 免疫がない集団では、1人の風しん患者から5～7人にうつす感染力を有する</li></ul>
都内での発生状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2012～2013年に、20～40代の男性を中心に全国で大規模発生、都内でも患者報告数が3,000人を超える大きな流行</li><li>・ この流行で、先天性風しん症候群の患者が都内で16人発生</li></ul>
症状	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>通常2～3週間（平均16～18日）の潜伏期間</b>の後、発熱、発疹、リンパ節腫脹が出現</li><li>・ 発熱は約半数程度、<b>感染しても症状が出ない場合</b>もあるが、<b>急性脳炎などの合併症を発症</b>する場合あり</li><li>・ 妊娠初期に感染すると、<b>先天性風しん症候群（CRS）</b>※を起すことがある</li></ul> <p>※ <b>先天性風しん症候群（CRS）</b> 免疫のない女性が妊娠初期に風しんに感染し、ウイルスが胎児に感染することにより、出生児に先天性の心疾患、難聴、白内障等の障害を起す病気の総称</p>

# 麻しん（はしか）・風しん - 患者発生状況等 -

都内における麻しん・風しん患者の発生状況と都民の抗体保有率の推移（令和5年のデータは12月31日時点）

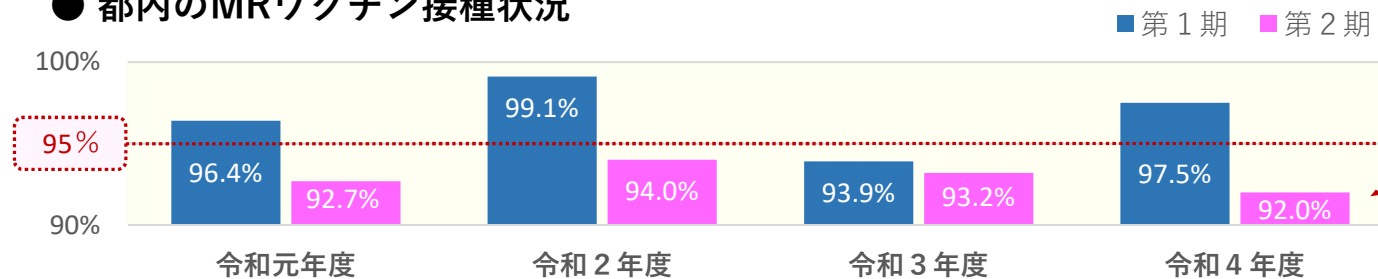
参照 患者発生状況：東京都健康安全研究センターホームページ / 都民の抗体保有率：感染症流行予測調査



## 麻しん・風しん予防接種（MRワクチン接種率等）

- 麻しん・風しんの流行を防ぐには、第1期（1歳以上2歳未満）、第2期（小学校入学前の1年間）の2回、麻しん風しん混合（MR）ワクチンの接種が必要で、ともに95%以上の接種率を保つことが望ましい

### ● 都内のMRワクチン接種状況



※ 特に第2期（小学校入学前の1年間）の接種率が低調

予防接種の検討を呼びかけ

# 麻しん（はしか）・風しん - 定期予防接種（MRワクチン） -

・麻しん・風しんは予防接種で防げる病気であり、  
ワクチン接種は個人でできる有効な予防策です！

・ワクチンの2回接種で約99%の人が抗体を保有し、免疫を持続させることができる

## 定期予防接種の対象者等

- ・第1期 1歳以上2歳未満
- ・第2期 5歳以上7歳未満で小学校入学前1年間  
(いわゆる幼稚園・保育園の年長児)

今春「小学校に入学する子」がいる保護者の方へ

▶ 定期予防接種第2期（公費負担）の期間：～3月中

・お子様のMRワクチン接種歴をご確認いただき、接種していない場合は、かかりつけ医等への相談をお願いします。

- ・いずれも、MRワクチンを1回接種
- ・接種券は区市町村から送付、接種可能な医療機関も指定

## 都の取組

➤ ホームページやSNS等で予防接種の検討を呼びかけ



麻しん（はしか）・風しんワクチン

合計2回の  
ワクチン接種を  
忘れずに受けましょう

1歳に  
なったら  
まず1回

小学校  
入学前  
にもう1回

1回目は1歳になってから2歳になるまで  
2回目は小学校入学前の1年間で  
それぞれ接種をお願いします。

なぜ、予防接種が必要なの…？

麻しん（はしか）及び風しんを予防するためには、予防接種が最も有効な方法だからです。  
例えば、麻しんは感染力が強く空気感染もするので、手洗い・マスクのみでは予防できません。  
1回の予防接種では免疫がつかない人などもあるため、2回の接種が大切です。

各地で麻しんが発生しています。予防接種はお早めに！

麻しん  
（はしか）  
とは

風しん  
とは

お子さまの健康が気になるときだからこそ、予防接種は計画的に受けましょう。  
麻しん（はしか）・風しんの接種については、裏面記載の窓口にお尋ねください。

# 麻しん（はしか）・風しん - 過去に接種できなかった方等への対策 -

## 定期予防接種の機会を逸失してしまった方への対策

- 一部の区市町村では、定期予防接種の機会を逃してしまった方への接種費用を助成  
※ 区市町村ごとに実施内容が異なります

## 風しんの追加的対策

1962(昭和37)年4月2日から  
1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性  
(45歳～62歳 誕生日到来時の満年齢)の方

- 過去に公的な予防接種が非実施であるため、ご自身が風しんにかかり、家族等に広げてしまう恐れあり
- 抗体検査、予防接種を原則無料で受けることができる
- 期間 2025年3月31日まで

- STEP1 区市町村から案内が届く  
STEP2 風しんの抗体検査を受ける（無料）  
STEP3 免疫が無い場合は風しんの予防接種を受ける（無料）

## 妊娠を希望する女性及び同居者、妊婦の同居者への風しん抗体検査・予防接種

- 妊婦が風しんに感染すると、胎児に先天性風しん症候群（CRS）※を起こすことがある
- 都では、感染予防、CRS予防のため、各区市町村と協力し、抗体検査・予防接種を実施



※ 先天性風しん症候群（CRS）：「風しんの症状等」に記載

※ 詳しくは、お住まいの区市町村にお問い合わせください。

## 麻しん・風しんに関する情報（東京都保健医療局ホームページ）

【リンク先】 <https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/measles-rubella/index.html>

